

第2回キールボート強化委員会議事録

2011年6月23日(木)

ちよだプラットフォームスクウェア 401 会議室

- ◆委員長：中澤信夫 司会：久保田悟 事務：金子純代 村井梨恵 書記：中山遼平
- ◆出席者(順不同)：児玉萬平 平井淳一 亀山浩史 外山昌一 石黒建太郎 古川龍文
稲葉健太 日根野聰弥 上松慮生 原巨樹 畠山知己 斉藤威
小島広久 関口功志

◆開会 19:05

- ◆中澤委員長挨拶、資料説明、JSAF 義援金に関する報告
- ◆初出席者自己紹介(小島、関口)

◆議事要旨

小委員会の設立、及びリーダー選出。

1. キールボートの活性化(ディンギーからキールボートへの参入)担当 リーダー：石黒
2. キールボートレースを楽しめる環境への改善担当 リーダー：稲葉
3. 各キールボートクラスの目標設定と強化戦略の策定担当 リーダー：山田
4. プロジェクト(ジャパンレースウィークの創設)の実行担当 リーダー：畠山

◆議事

久保田：テーマごとに小委員会を立ててリーダーを決めたい。その後 PDCA を実行していく。テーマの候補として、キールボートに参入する大学生ディンギーセーラーを増やすことと、ヨット競技の質の向上を考えている。

稲葉：目的と過程をまとめていく必要がある。

軸として、①キールボート活性化の推進、②キールボートを楽しめる環境への改善、③各キールボートクラスにおける世界に目を向けた目標設定と強化戦略の策定、④上記各目的を具現化する手段として、プロジェクト(ジャパンレースウィークの創設)の実行を考えている。レースウィークでは、ディンギーを含む様々な艇種が同じハーバー・海面でレースを行う。

中澤：湘南エリアに限った話にならないよう注意する必要がある。

児玉：ヨットクラブの現状について、NYC 時代に関東支部では 13 フリート間で日程等調整が行われていたが、JSAF と NRC の統合時に各フリートがヨットクラブ化を目指したことで独立色が強まった。その結果、草の根のヨット組織は確立したが、これらを統率する中間組

織が育たなかった。ヨットクラブ間の調整というよりも、それらのリーダーとなる組織が必要なのでは。ただ、葉山や小網代のような伝統あるヨットクラブとの共存も必要である。

平井：地方こそセーリング人口の減少が深刻であり、この委員会の活動を全国に伝える必要がある。地方の現状を知るべきであり、相模湾に限った話にしてはならない。

畠山：相模湾内でも様々なクループがあり簡単ではない。

稲葉：JSAF からの役割分担・ルールづけにより全国的な連携をとれないか。

久保田：全国的に同時に進めることが理想であるが、相模湾はヨット界の縮図ともいえモデルケースとしては有用である。ただ、他の地域の人との話し合いは必要であり、会議自体の日程や場所も再考の余地がある。

中澤：キールボート強化委員会の設立については全国的なセーリング関係者に伝えている。議論の形がある程度整ってから地方に行き関係者と協議する予定であり、議論もそういう流れで進めていく必要がある。

金子：大学生のディンギーセーラーがキールボートに参入できるスキーム作りは全国的に役立つはずであり、テーマとして妥当である。

中澤：2012年4月1日にJSAFが公益法人へ移行する手続きを進めており、それまでに委員会として具体的な事業を始め、一定の成果を挙げられればと考えている。

日根野：確認として、ターゲットを（クルージングなどでなく）ヨット競技にしぼるということでもいいのか。

中澤：クルージングなどを否定するわけではないが、まずは競技に焦点を合わせていく。

日根野：質と量の問題があり各種小委員会が必要であり、量については宣伝や観覧を通し学生や一般の人にアピールする方法もある。これらの集大成としてレースウィークがあるのではないか。

稲葉：②の環境改善はJSAF各委員会をまたがる別次元の話で、ヨットレースのスケジュール調整などトップダウンの働きかけも必要ではないか。

久保田：環境改善は根幹であり、課題と目標を明確にしなければならない。環境改善を担当する小委員会のリーダーを稲葉さんをお願いしたい（了承）。

稲葉：④のプロジェクト（レースウィーク）実行を担当する小委員会リーダーに畠山さんを推薦したい（了承）。

児玉：実際の学生のニーズや現状の意識調査を行い、キールボートが活性化できる納得のシナリオを描いてくれればJSAFとしても無視はできない（例、学生の延長でできる新人戦の開催）。委員会からJSAFに提言という形も、ちゃんとした裏づけのあるストーリーなら可能である。個人的には、ストーリーを描いてくれれば助力を惜しまないつもりである。また、縦横に太いつながりを持ったヨットオーナーを増やすことが活性化につながると考える。

斉藤：J24はモデルに適しており、肩肘張らずにやってもらいたい。葉山で行われているエンジョイ・セーリングのように、日本財団の助成金を（ディンギーとキールボートの交流やヨ

ット普及につながるのであれば) レースウィークに適用できるかもしれない。

児玉：ターゲットをオフショア・ワンデザインにしぼってはどうか。

久保田：①のキールボートの活性化(ディンギーからキールボートへの参入)を担当する小委員会のリーダーを石黒さんをお願いしたい(了承)。③のキールボートの目標設定を担当する小委員会のリーダーを山田さんをお願いしたい(了承)。

稲葉：各小委員会のメンバーを偏りがないように配置する必要がある。

中澤：やる気のある人を配置していきたい。委員会事務局から配置案を提出する。委員メンバー登録も15名ほど募集する。霜山さんや外山さんもオブザーバーとして参加を希望している。今後、委員会の内容をJSAF役員及びメンバーへ発信していきたい。

児玉：地方の人もメンバーに組み込むべきである。ところで、ユース・アメリカズカップが企画されており、若手向けで補助も受けやすくJSAFとして参戦を検討している段階である。

中澤：ホームページ利用などJSAFからの情報発信をさらに増やしていければ。日中韓親善招待レガッタもJSAFメンバーへ告知を広げ、有効利用していきたい。今年は立候補チームが多い場合、派遣チームをくじ引きで決める事になる。

平井：親善レガッタについて、年々レベルは上がってきているようであり、目標の一つとなり得るのではないか。

畠山：国内予選を設ければ盛り上がるのではないか。

◆閉会 20:55

◆次回委員会は7月21日(木) 19:00 ちよだプラットフォームスクウェア 402 会議室